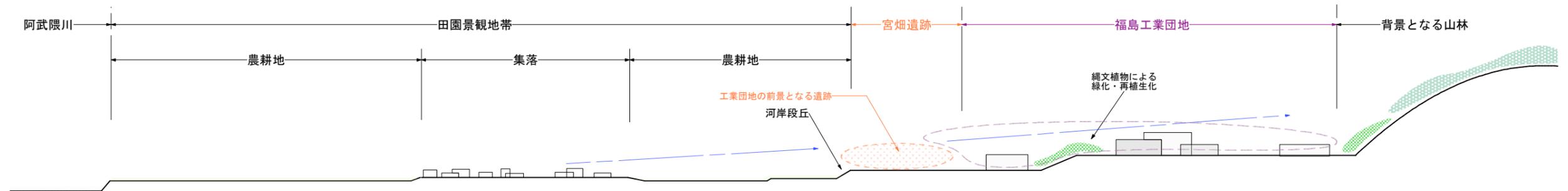
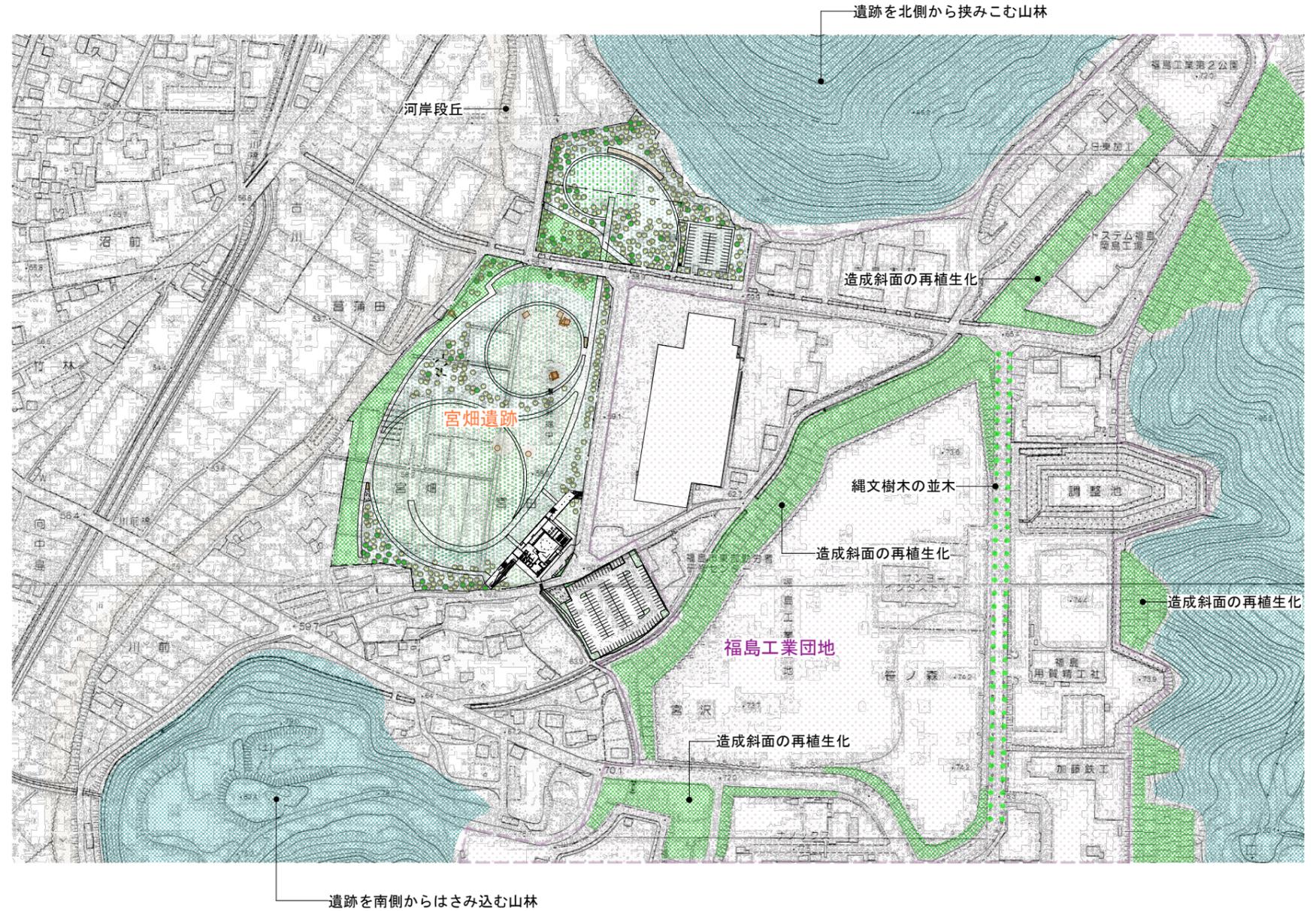
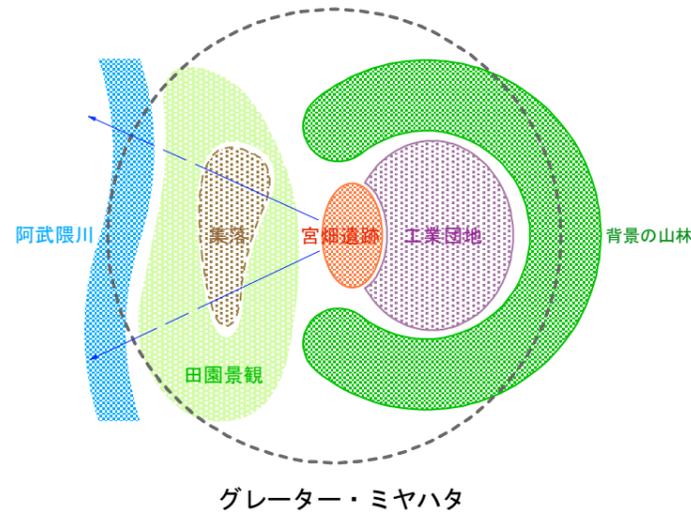


- ・阿武隈川から右岸の山林に至る広域的な田園景観の中で、河岸段丘上に立地した縄文集落の遺跡整備によって、地域の景観的な核が形成される
- ・遺跡の整備によって、東側に造成された工業団地と阿武隈川沿いの田園地帯との間に景観的なつながりが形成される
- ・整備された遺跡は、阿武隈川からの眺望に対して東側の山林を背景としつつその間に造成された工業団地の前景となる
- ・遺跡から西側に開放的な眺望景観の構造をつくることによって、工業団地の領域を景観的に背負うかたちをつくることできる
- ・工業団地内の造成斜面や道路植栽において、縄文時代の植生による緑化をすすめることにより、景観的な一体性をつくりだすことできる



ランドスケープデザインの課題

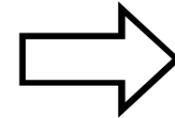
- 縄文ランドスケープの表現
- 縄文遺構の表現
- 縄文期の環境表現
- 快適な利用環境の創出
- 多様な事業展開の場の創出

ランドスケープデザインのテーマ

縄文遺構のうえに描かれるひとりひとりのストーリー

遺跡整備への社会的要請

- 地域と市民の交流・協働の促進
- 学習と情報発信の拠点形成
- リピーターの獲得
- 観光拠点ネットワークの形成



ランドスケープデザインのコンセプト

①縄文と現代をつなぐ空間・景観・環境

～縄文と現代の表現上のバランス

- ・遺構や遺物に向けられる意識と現在の環境や景観に向けられる意識
- ・空間や景観の OPEN / CLOSE のメリハリ
- ・具象的なカタチと抽象的なカタチの対比
- ・プリミティブな素材と現代的な素材の組み合わせ

②永続的・固定的であると同時に仮構的・動的である空間・景観・環境

～変わらないものと変わるもののバランス

- ・永続的なものとしての遺構とその表現
- ・固定的なものとしてのランドフォーム
- ・仮構的なものとしてのイベントとそのための設え
- ・動的なものとしての光、風、緑、四季・・・

③説明的であると同時に感覚的である空間・景観・環境

～「知ること・学ぶこと」と「感じること・楽しむこと」のバランス

- ・必要最小限に抑えられる解説的な情報提供
- ・固定的な順路から自在な組み合わせのシークエンスへ
- ・部分からでもアプローチできる屋外展示
- ・全体を俯瞰できる多様な視点場

北側の山腹から連続する樹林の形成  
縄文期の植物種の組成を踏襲する

河川跡の遺構から連続する草地と疎林のスペース  
小規模なイベントへの対応

河川跡の復元にもなう水景施設の整備

道路を挟んだ空間の連続性を確保

道路を通行する車両の動線を修景するためのマウンド

縄文晩期の集落を空間的に再現しつつ具体的な遺構を忠実に復元・展示するエリア

隣接する農地の工作物や景観的な障害要素を隠すとともに、遠景の稜線を視覚的に取り込むための見切りとなるマウンド

環境修景地区として広い草地の広場を中心とした大規模なイベントに対応したエリア  
遠景の受け皿となるおおらかな空間的広がりの確保

ガイダンス施設を修景しつつ、遠景の山林を視覚的に取り込むための見切りとなる植栽帯  
公園内を視点場とした広大な縄文ランドスケープの形成を図る

縄文晩期の集落から河川跡を経て北側の山腹へと続く  
景観の連続性を確保する

南地区を補完しつつ北地区へのアクセスの利便性を考慮した駐車場の配置

東側に広がる工業地帯との緩衝帯としつつ、遠景の山林を視覚的に取り込むための見切りとなる植栽帯。公園内を視点場とした広大な縄文ランドスケープの形成を図る

遺跡全体の空間的な要となる位置に配置されるガイダンス施設

主要アプローチ道路からの乗り入れに適しガイダンス施設へのアクセスの利便性を考慮した駐車場の配置 (約4,000㎡)

